

# 囲碁入門講座通信 令和2年 第11号



報告:有楽齋

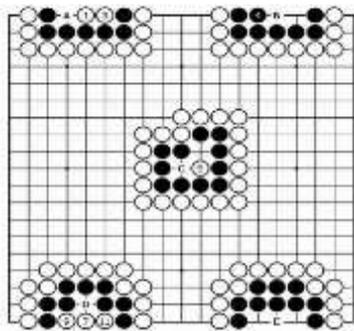
毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用の練習問題を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

## 超やさしい死活入門①

### 3~5目のスペース/眼の急所を知る

前号(第10号)で、生きている石と、そのまま死んでいる石について解説しました。ここではその続きとして、次の一手で石が生きたり死んだりする形を学びます。題して「超やさしい死活入門①」です。今回は地となるスペースが3目の場合から4目の場合まで、順番に見ていきます。(次号で4目から5目の予定)



#### ・3目の真ん中

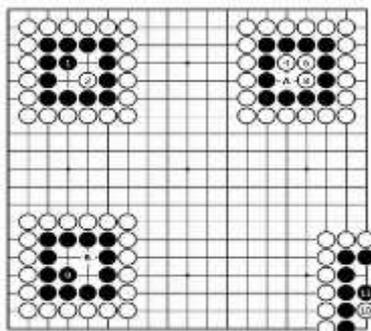
**左上**(急所) 黒地のスペースは3つです。この形では3目の真ん中が死活の基本。黒番なら1のところに打って、二つの部屋(二眼)ができますから生きています。白番ならやはり白1が急所で黒を殺すことができます。このままで黒は死にませんが、白3以下はその証明です。黒はAと取るしかありませんが…

**右上**(つづき) 左上の続き。黒4と白2子を取った抜きあとに、白Bと打って黒が取れます。

**中央**(同じ3目) 黒地3目の形が曲がっていても同じです。やはり白5が3目の真ん中で、黒は死にます。実戦ではこのあと白Cと取りに行く必要はありません。黒番ならもちろん黒5で生きています。

**左下**(4目でも) 黒のスペースが4つになりましたが、この形は白7が眼形の急所で、このままで黒は死んでいます。実戦では打つ必要はありませんが、9以下はその証明。黒が手抜きして白11までとなったとき、黒Dと3子を取りますが…

**右下**(つづき) 抜きあとは左上の形と同じですね。ここで白番ですから、もちろんEに打って黒死です。



#### ・4つのスペース

**左上**(黒先黒死) 黒のスペースが4つで、形が正方形の場合は、黒から打っても生きることができません。仮に黒1と打てば、白2が3目の真ん中で黒が死ぬことはすでに説明しました。

**右上**(証明) 黒が放っておいてもそのまま死にますが、その証明です。白4、6に黒手抜きのと白8となり、黒はAと打たざるを得ません。

**左下**(抜きあと) 黒9と3子を取ったところ。Bが眼形の急所なのはもうおわかりですね。

**右下**(直四は生き) 同じ4つのスペースでもこの形はそのまま黒が生きています。白10と打てば黒11。白10で11なら黒10と打ちます。黒は二眼を確保できます。